



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	『現代日本語書き言葉均衡コーパス』に見られる「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたない」「～てしょうがない」の使い分け：日本語学習者に対する指導への応用
Author(s)	鄭, 恵先; 小池, 真理; 船橋, 瑞貴
Citation	北海道大学留学生センター紀要, 13, 4-21
Issue Date	2009-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/45680
Type	departmental bulletin paper
File Information	BISC013_002.pdf



『現代日本語書き言葉均衡コーパス』に見られる「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたない」「～てしようがない」の使い分け

－日本語学習者に対する指導への応用－

鄭惠先・小池真理・船橋瑞貴

要 旨

本稿では、類義表現の「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたない」「～てしようがない」に関して、前接語彙とジャンルという2つの観点からその使い分けを分析した。本稿で使用した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』は、大規模かつ複合性を持つ多ジャンルコーパスであるため、近似的ではあるが現実の日本語使用を多く反映している。よって、つぎに示す本稿での分析結果は、実際の使用場面に直結する有益な情報として、日本語学習者に提供できるものと考ええる。1)「ならない」は動詞、中でも自発、心状を表す動詞との共起関係が強く、「たまらない」はイ形容詞、中でも希望、感情を表すイ形容詞との共起関係が強い。2)「気がしてならない」「～たくてたまらない」「気になってしかたない」など、いくつかの定型的な共起パターンが存在する。3)文字言語的要素の強いジャンルでは「しかたない」、音声言語的要素の強いジャンルでは「しようがない」の使用が目立つ。4)国会議事録のような、フォーマルさを持ち、客観性が求められる話題の場では、「ならない」の多用、「たまらない」の非用という特徴的な傾向が見られる。【キーワード】 前接語彙、品詞、意味、共起パターン、ジャンル

1. はじめに

日本語学習者（以下、学習者とする）向けの文法書では、「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたない」「～てしようがない」の4形式についていずれも、感情、感覚、欲求の程度が激しいことを表す表現であると記述されている。このように、日本語教育において類似した表現として扱われていながら、この4形式の使用状況を細かく考察してみると、互いに使用上の違いが見られるのも事実である。しかし、学習者の中には、これ

らの用法を正しく使い分けることができず、不自然な文を産出したり使用を回避する者も少なくない。杉村（2007）は、「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたない」の3つの形式と共起しやすい前接語彙について、日本語母語話者と学習者の許容度を調査している。この論文では、これらの形式の用法について日本語母語話者が一定の「使い分け意識」を持っているのに対して、学習者は「使い分け意識」が薄い上、形式を問わず共起しやすいと判断する前接語彙に限られると述べられている。

本稿の目的は、これらの類似した形式が実際どのように使い分けられているかをコーパスをもとに整理した上で、その結果をもって学習者への指導に有効な手引きを提供することである¹⁾。そのため、本稿では、近年日本語研究のための代表性を備えたコーパスとして注目されている『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ：Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese）』（以下、『BCCWJ』とする）を使って、「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたない」「～てしようがない」の4形式の出現実態を考察する。

具体的には、まず4形式の前接語彙に注目して、各形式にどんな品詞や意味の語彙が共起しているかを分析する。そして、4形式と前接語彙からなる共起パターンについて詳しく考察する。また、これまでの先行研究ではまったく触れられることがなかった、4形式とジャンルとの関連についても、コーパスの分析結果をもとに考察していく。

2. 日本語教育における4形式の扱い

「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたない」「～てしようがない」の4形式の使い分けについて、日本語教育の現場で多く用いられる文法書などで、どのように記述されているかをしてみると、大きく2つの傾向があるように思われる。

まず、代表的な学習者向けの参考書といえる友松ほか（2007）とグループ・ジャマシイ（1998）の場合、4形式を関連づけることなく個別に扱った上で、限定的にその類似性について触れている。友松ほか（2007）には、「～てしようがない」をとりあげて「『てしかたがない』のくだけた話しことば（p.188）」と説明するほかに4形式の使い分けについての具体的な記述は見あたらない。グループ・ジャマシイ（1998）も同じく「～てしようがない」を「『…てしかたがない』のくだけた話しことば（p.256）」と

し、「～てたまらない」については「『てしかたがない』とだいたい同義 (p.256)」とだけ記述している。互いの使い分けについての唯一の積極的な言及は、「～てならない」の説明の中に見られる、「『…てしかたがない』とは違って、感情・感覚・欲求以外の言葉を用いるのは難しい (p.258)」という記述である。

学習者向け参考書でのこのような扱いは、これからもっと表現のバリエーションを広げていこうとする中級以上の学習者にとって有効な手がかりとはならない。

つぎに、主に教師向けの文法書といえる庵 (2001) と泉原 (2007) を見ると、上の2種の参考書とは違って、4形式の使い分けについて互いを比較しながらの具体的な記述が見られる。

たとえば、庵 (2001) では、「～てしかたがない」によく似た表現として「～てたまらない」「～てならない」をとりあげ、これらが常に置き換えられるわけではないことに触れている。さらに、「『てたまらない』は (中略) 思考の表現にはあまり用いられません。逆に『てならない』は思考の表現には使え、身体感覚の表現に使うとやや不自然です (p.248)」とし、「～てたまらない」と「～てならない」の使い分けについても説明している。

泉原 (2007) では2項にわたって、これらの表現の使い分けについて述べており、その内容をまとめると以下のとおりである²⁾。

表1 泉原 (2007) による4形式の使い分け

		～てならない	～てたまらない	～て仕方ない	～てしようがない
A	感覚／感情／欲求	○	○	○	○
B	動詞＋予感／自然に起こる自発的感情	◎	×	◎	◎
C	話し手の「性質／属性／価値」に対する評価	×	○	×	○
D	動詞＋事態を制御できない「苛立ち／困惑」	×	×	◎	◎

(注) ◎：「形容詞／状態動詞／動詞」に接続

○：「形容詞／状態動詞」に接続

×：使用不可

以上、泉原 (2007：678) から抜粋・改変

しかし、以上のような教師向け文法書での記述は説明が複雑で抽象的になりがちであり、教師がこの内容を教育現場で学習者にどのように伝えていくかが問題となる。ましてや、学習者がこれらの文法書を参考にして4形式の使い分けのパターンを理解し、実際に活用するにはあまりにもハードルが高い。

以上の考察から、これまでの日本語教育における4形式の使い分けに関する記述が、教育現場での活用にならずしも望ましい形ではないことがわかる。よって、本稿でのコーパスを使った使用実態の分析が、実際の教育現場で4形式の使い分けを学習者にわかりやすく提示するために役立つと考える。

3. 『BCCWJ』を使用する意義

3.1 大規模コーパスとしての『BCCWJ』

『BCCWJ』は、「現代日本語の書き言葉の全体を把握するためのコーパス」を目標に、国立国語研究所が2006年から5年計画で現在も構築を進めている1億語規模（2011年予定）のコーパスである。

コーパス全体についての紹介は前川（2008）などにゆだねるとして、以下に、本コーパスに所収されているデータの語数をジャンル別に分けて示す（2009年7月現在）。

- ・書籍 3030万語
- ・白書 480万語
- ・Yahoo!知恵袋 520万語
- ・国会会議録 490万語

上記のジャンル区分が持つ意味については3.2で述べるが、まずは、各ジャンルの簡略な説明として前川（2008：87）を以下に要約しておく。

1つ目に、「書籍」に含まれるのは、2001年から2005年の間に出版された書籍・雑誌・新聞など（これを「出版（生産実態）サブコーパス」と呼ぶ）と、東京都下52自治体の公立図書館のうち13館以上に収蔵されている書籍で、ISBNが付与されており、1986年から2005年の間に出版されたもの（これを「図書館（流通実態）サブコーパス」と呼ぶ）を母集団として無作為で抽出したコーパスである。2つ目に、「白書」は過去30年間に政府が刊行した白書から無作為抽出したテキストであり、3つ目に、「Yahoo!知恵袋（以下、「知恵袋」とする）」は、ヤフー株式会社から提

供されたインターネット掲示板のデータから無作為抽出したテキストである。最後に、「国会議事録（以下、「国会」とする）」は、国会図書館がすでにインターネットで公開している衆参両院の議事録のうち過去30年分を対象として無作為抽出したテキストである。

以上、計4520万語が本稿で扱うデータである。このように、『BCCWJ』は大量のデータを収容する大規模コーパスであり、言語使用の実態を探る上で有効なコーパスであると考ええる。

3.2 複合性をもつ多ジャンルコーパスとしての『BCCWJ』

『BCCWJ』は、現代日本語の書き言葉コーパスであるが、ここにいる書き言葉とは、最終的に文字化されたデータを意味している。その内実としては、音声言語も近似的な音声言語も含まれているため、いわゆる書き言葉、話し言葉に限定することはできない。そのため本稿では、実際に書かれたものを文字言語、実際に話されたものを音声言語として扱う。

『BCCWJ』の各ジャンルの特徴を示したのが、以下の図1である。

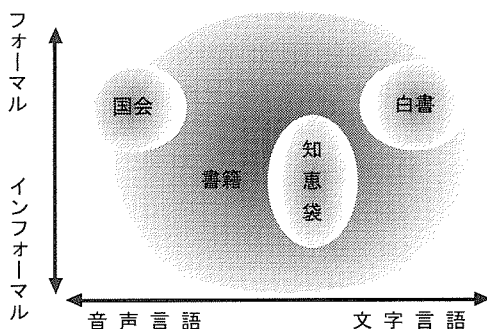


図1 各ジャンルの特徴

『BCCWJ』は、大きく音声言語（「国会」）と文字言語（「知恵袋」「書籍」）に分けることができる。まず「国会」は、あらたまった場でのフォーマルな発話である。また、とりあげられる話題も客観性が重視される音声言語である。つぎに「知恵袋」は、個人が質問を投げかけ、ある個人が回答を寄せるインターネット掲示板である。相手が不特定とはいえ、待遇的な要素を含む場であるため、ある程度のフォーマルさが求められる。また、とりあげられる話題において客観性はそれほど求められず、インターネット

の掲示板という性格上、文字言語ではあるが音声言語に近い特徴をも一部有していると考えられる。

そして、「白書」は、典型的なフォーマルさを持つ文字言語である。しかし、本稿で分析対象とする「て」に連動した4形式が1例もなかったのも、ここでは対象外とする。

最後に「書籍」は、新聞、雑誌をはじめ文学書などの様々な種類を含む文字言語である。しかし、たとえば、小説の会話文は近似的な音声言語と判断され、フォーマルさや客観性においても特定しにくいジャンルである。よって「書籍」は、複数の要素が混在した広範囲のジャンルと捉えるのが妥当であろう。以下、各ジャンルの例をあげる。

- (1) まだ問題があるような気がしてならないのです。

[BCCWJ「国会」]

- (2) どうしても気になって仕方ないので質問します。

[BCCWJ「知恵袋」]

- (3) 「なに、本心は、お米さん、嬉しくてたまらないだろう？」

[BCCWJ「書籍(文学)」]

このように『BCCWJ』は、複合的なコーパスであるがゆえに、言語使用の実態を反映したコーパスであるといえよう。

4. 『BCCWJ』における4形式の出現頻度

ここでは、抽出方法と出現頻度について述べる。抽出対象とした検索語は「て／で」に「ならない」「たまらない」「しかたない」「しようがない」の4形式が後接している形のものである。そのバリエーションについてだが、まず、「～てしかた(が)ない／ありません」と「～てしようがない／ありません」「～てしようがない／ありません」の非過去形、過去形、て形の全てを抽出した(以下、「しかたない」、「しようがない」とする)。「～てならない／なりません」と「～てたまらない／たまりません／たままない」は、非過去形、過去形、て形に加えて「～ず」の形も抽出対象とした(以下、「ならない」、「たまらない」とする)。ちなみに、「しかたない」と「たまらない」には「仕方ない」「堪らない」といった漢字語も含まれている。

なお、杉村(2007)では「しかたがない」と「しようがない」は区別して分析されていないが、本稿では使用要件に注目したため、両者を区別し

て分析する。実際に、現代日本語研究会編 (2002)『男性のことば・職場編』の自然会話を調査した結果、全22,520例中「ならない」「たまらない」「しかたない」は見られず、3例の「しょうがない」のみが抽出された。

以上の条件をもとにコーパスから該当文脈を抽出した結果、総ヒット数1577例のうち、「泣けてならない」「好きでしょうがない」「暑くてたまらない」などのように、「て」に連動した形式の出現数は計1366例であった。以下の表2がその詳細である。ほかの211例は、本稿での考察対象ではない自立語の形式で、たとえば「決してならない」「相手がいないので仕方なく」「だってしょうがないじゃない」などであった。よって、本稿では、表2に示した1366例のみを分析対象として考察を進めていく。

表2 『BCCWJ』における4形式の出現頻度

形 式	出 現 数 (%)
ならない	628 (46.0)
たまらない	386 (28.3)
しかたない	192 (14.1)
しょうがない	160 (11.7)
合 計	1366 (100.0)

表2の結果によると、「ならない」の出現頻度が628例で全体の46.0%を占めており、「しかたない」の192例 (14.1%) と「しょうがない」の160例 (11.7%) に比べると非常に高い数値である。しかしながら、この出現頻度の差をそのまま現実の使用実態に当てはめることはできない。本コーパスに所収されているデータの語数にはジャンルによる量的な偏りが見られるため、コーパス全体の4形式の出現頻度を相対的に比較しても、その結果がすべてのジャンルの特徴を均等に反映しているとはいいがたい。したがって、5.以降では、形式間の相対的な頻度数ではなく、各考察項目の百分率をもとに分析を行う。

5. 前接する語彙の品詞と意味からの分析

ここでは、4.で得られたデータを前接語彙と関連づけてみていく。具体的には、学習者に有効な日本語情報を与えるという目的のもと、前接語彙の「品詞」と「意味」、「共起パターン」という3つの観点から考察を行う。

5.1 前接する語彙の品詞

ここでは、「ならない」「たまらない」「しかたない」「しょうがない」の4形式に前接する語彙の品詞からそれぞれの特徴を分析する。まず、前接する語彙の品詞の出現数を調べる。その結果が表3である。

表3 前接する語彙の品詞

出現数(%)

	動 詞	イ形容詞 ³⁾	ナ形容詞	名 詞
ならない	395(62.9)	71(11.3)	160(25.5)	2(0.3)
たまらない	20(5.2)	229(59.3)	136(35.2)	1(0.3)
しかたない	71(36.9)	81(42.2)	40(20.8)	0(0.0)
しょうがない	58(36.3)	69(43.1)	33(20.6)	0(0.0)

表3から、いずれの形式も名詞とはほとんど共起していないことがわかる。出現したのは、たとえば「重荷でたまらない」のように名詞そのものに大変だという気持ちを含むような語彙のみである。その他の品詞と各形式との共起関係の特徴として、「ならない」と「たまらない」に前接する語彙の品詞に顕著な差があることがわかる。「ならない」は動詞との共起が多く、イ形容詞との共起が少ないのに対して、「たまらない」は動詞との共起が極端に少なく、イ形容詞との共起が多い。「しかたない」と「しょうがない」は、前接する語彙の品詞に関して「ならない」と「たまらない」ほど顕著な特徴は示していない。

つぎに、前接する語彙が動詞の場合に注目し、共起する頻度の高い語彙について分析する。その結果を表4にまとめる。

表4 共起頻度の高い動詞

出現数(%)

	動 詞 別					
ならない	気がする	思える	思われる	感じがする	感じられる	合計
	152 (38.5)	102 (25.8)	41 (10.4)	15 (3.8)	15 (3.8)	325 (82.3)
たまらない※	腹が立つ	気になる	いらいらする			合計
	4 (20.0)	2 (10.0)	2 (10.0)			8 (40.0)
しかたない	気になる	思える	気がする	腹が立つ	見える	合計
	35 (49.3)	5 (7.0)	5 (7.0)	5 (7.0)	4 (5.6)	54 (75.9)
しょうがない	気になる	気がする	腹が立つ	思える	見える	合計
	18 (31.0)	11 (19.0)	6 (10.3)	4 (6.9)	3 (5.2)	42 (72.4)

※「たまらない」については、とりあげた3動詞以外は1例ずつの異なる動詞であるため、表に記載していない。

「たまらない」以外は、表中の動詞との共起が全体の72～82%を占めており、かなり限定された動詞との共起が多いことがわかる。特に「ならない」は、「気がする」「思える」「思われる」の3動詞との共起が約75%を占め、他形式に比べ使用制限が顕著である。また、「しかたない」は「気になる」と、「しようがない」は「気になる」「気がする」と共起する頻度が高いことが明らかになった。

つぎに、前接する語彙が形容詞の場合に注目し、共起する頻度の高い語彙について分析した結果、以下の2点が明らかになった。まず、「ならない」は、ナ形容詞の「不思議だ」との共起がもっとも多く、「心配だ」「残念だ」「不安だ」と続き、これらのナ形容詞4語で、共起した形容詞のほぼ半数を占めた。この結果は、「残念だ」ともっとも共起しやすいという杉村(2007)の結果と若干異なる。この違いは、使用したコーパスの内容の差に起因する可能性がある。「不思議だ」が多いのは、コーパスの一部である「知恵袋」がそもそも質問を寄せる掲示板であることに影響されていると考えられる。このように、コーパスによる特質な表現まで考慮した分析の視点が必要であろう。

2点目に「たまらない」は、「～たい」と共起する頻度がもっとも高く、「いやだ」「不安だ」と続き、共起率の高い語彙に関してはイ形容詞とナ形容詞との間に差は見られなかった。「しかたない」と「しようがない」に関しては顕著に高い共起率を示す形容詞はなかった。

5.2 前接する語彙の意味

動詞はその意味によって、感情動詞、感覚動詞、自発、心状動詞、その他に分類する。本稿では、「気がする」「気になる」「感じがする」のように「気」「感」が含まれ、心の動きの状態を表す動詞を「心状動詞」と呼び、カテゴリーを新たに設ける。これは、本稿が学習者への指導のポイントを提案することを目的としていることから、学習者にとってもその意味分類がわかりやすいようにするためである。分類の結果が表5である。

表5 前接動詞の意味による分類

出現数(%)

	感情動詞	感覚動詞	自 発	心状動詞	その他	合 計
ならない	11 (2.8)	1 (0.3)	181 (45.8)	182 (46.1)	20 (5.1)	395 (100)
たまらない	7 (35.0)	2 (10.0)	1 (5.0)	2 (10.0)	8 (40.0)	20 (100)
しかたない	7 (9.9)	7 (9.9)	10 (14.1)	42 (59.2)	5 (7.0)	71 (100)
しようがない	8 (13.8)	1 (1.7)	9 (15.5)	31 (53.4)	9 (15.5)	58 (100)

表5より、「ならない」「しかたない」「しようがない」のいずれも心状動詞との共起がもっとも多いことがわかる。「ならない」の前接動詞は、ほぼ自発を表す動詞と心状動詞といえよう。これは、表4で示した「気がする」「思える」「思われる」との共起頻度が高いという結果と一致する。たとえば、(4)のような例である。

(4) 日本人の飽食があさましく思えてならないんです。

[BCCWJ「書籍(歴史)」]

さらに、感情や感覚を表す動詞とは共起しにくく、実際の使用場面において使用制限があることがわかる。

「たまらない」に前接する動詞は出現総数が極めて少ないものの、以下の(5)のような感情動詞がもっとも多い。

(5) とにかく苛苛してたまらないのです。 [BCCWJ「知恵袋」]

つぎに、形容詞はその意味によって、感覚形容詞、感情形容詞、希望、その他に分類する。この結果を表6にまとめる。

表6 前接形容詞の意味による分類

出現数(%)

	感覚形容詞	感情形容詞	希 望	その他	合 計
ならない	1(0.4)	148(64.1)	3 (1.3)	79(34.2)	231(100)
たまらない	36(9.9)	220(60.3)	70(19.2)	39(10.7)	365(100)
しかたない	9(7.4)	69(57.0)	17(14.0)	26(21.5)	121(100)
しようがない	9(8.8)	58(56.9)	11(10.8)	24(23.5)	102(100)

表6より、いずれの形式も感情形容詞との共起がもっとも高いことがわかる。以下の(6)～(8)がその例である。

(6) 漁民にとっては本当に極めて不安でならない。

[BCCWJ「国会」]

(7) 人と比べられるのがイヤでたまりませんでした。

[BCCWJ「書籍(芸術・美術)」]

(8) 入学したときは嬉しくてしかたなかった。

[BCCWJ「書籍(芸術・美術)」]

ここで注目したいのは、「たまらない」が20%近く希望を表す形容詞「～たい」「～ほしい」と共起するのに対して、「ならない」は希望を表す形容詞とも感覚形容詞ともほとんど共起していないことである。前接する形容詞の意味に関しても「ならない」には使用制限があることが示された。以

下の(9)は、「たまらない」に希望を表す形容詞が共起した例である。

(9) 家出したくてたまらない気持だった。 [BCCWJ「書籍(文学)」]

5.3 前接語彙別に見る4形式との共起率

実際の文産出の際には、たとえば「好きだ」「気になる」「不思議だ」などの表現したい語彙はすでに存在しており、その上で、その程度の激しさを表現するために「ならない」「たまらない」「しかたない」「しようがない」の語彙のいずれかを選択する。つまり、学習者が選択に迫られるのは、前接語彙ではなく4形式の部分である。よって、前接語彙からみた4形式との共起パターンの分析は、本研究を日本語教育に生かすためには必要不可欠である。このような観点を取り入れることにより、実際の日本語教育の現場で、より直接的で具体的な共起パターンの提示が可能になるからである。

ここでは、コーパス全体の中で出現頻度の高い前接語彙を取り出し、その総数を基準として4形式との共起率を算出する。そこから、前接語彙と各形式との共起関係をより細かく分析する。表7はその結果である。

表7 前接語彙別に見る4形式との共起率

出現数(%)

		ならない	たまらない	しかたない	しようがない	総 数
1	気がする	152(90.5)	0(0.0)	5 (3.0)	11 (6.5)	168(100)
2	思える	102(91.9)	0(0.0)	5 (4.5)	4 (3.6)	111(100)
3	～たい	2 (2.6)	52(67.5)	14(18.2)	9(11.7)	77(100)
4	気になる	10(15.4)	2 (3.1)	35(53.8)	18(27.7)	65(100)
5	不思議だ	45(70.3)	11(17.2)	3 (4.7)	5 (7.8)	64(100)
6	心配だ	24(42.9)	21(37.5)	6(10.7)	5 (8.9)	56(100)
7	不安だ	18(32.1)	22(39.3)	11(19.6)	5 (8.9)	56(100)
8	嬉しい	15(29.4)	21(41.2)	6(11.8)	9(17.6)	51(100)
9	思われる	41(95.3)	1 (2.3)	0 (0.0)	1 (2.3)	43(100)
10	嫌だ	2 (5.3)	28(73.7)	3 (7.9)	5(13.2)	38(100)
11	残念だ	23(69.7)	8(24.2)	1 (3.0)	1 (3.0)	33(100)
12	好きだ	1 (4.2)	19(79.2)	0 (0.0)	4(16.7)	24(100)
合 計		435	185	89	77	787

表7の結果から、つぎのような共起パターンを学習者に具体的に提示できる。もっとも共起率が高い3パターンは、「思われてならない(95.3)」「思えてならない(91.9)」「気がしてならない(90.5)」の順であり、すべて「ならない」との共起パターンである。このほかにも「不思議でならない(70.3)」

「残念でならない (69.7)」の共起パターンも目立つ。

また、「好きでたまらない (79.2)」「嫌でたまらない (73.7)」「～たくてたまらない (67.5)」のように、「たまらない」との共起パターンの数値も高い。ほか、「気になってしかたない (53.8)」の共起パターンも認められる。これらの共起パターンの情報を学習者に与えることによって、実際の使用場面での直接的な活用が期待できる。

6. コーパスにおけるジャンルからの分析

実際の日本語使用は、ある具体的な状況があり、そこでとりあげられる話題によって適した表現が選択されるものである。管見のかぎり、従来の記述においては、4形式の使い分けに関して、日本語が使用される場という観点からは論じられていない。日本語使用の場という観点からの分析によって得られる知見は、学習者に提示すべき情報となると思われる。そこで本稿では、ジャンルからの分析を行う。

分析のポイントは、図1で示した「文字言語・音声言語」、「フォーマル・インフォーマル」に加え、「話題の傾向」という3点である。

6.1 ジャンルから見る4形式の出現頻度

4形式の出現をジャンル別にみたものが表8である。

表8 ジャンル別に見る4形式の出現頻度

					出現数(%)
	ならない	たまらない	しかたない	しようがない	合 計
国 会	87(82.1)	1 (0.9)	2 (1.9)	16(15.1)	106(100)
知 恵 袋	52(16.7)	86(27.6)	116(37.2)	58(18.6)	312(100)
書 籍	489(51.6)	299(31.5)	74 (7.8)	86 (9.1)	948(199)

表8から、つぎの2点に注目したい。まず、「国会」における「ならない」「たまらない」の対立的な傾向を見る。「国会」において「ならない」の使用、「たまらない」の不使用が顕著であるのは、「国会」でとりあげられる主な話題が、客観性・論理性が重視される話題であることとの関連が考えられる。「たまらない」と強い共起関係が認められた前接語彙が、希望を表わす形容詞「～たい」、感情形容詞「嫌だ」「好きだ」であった点、また、これらの語彙が一樣に「ならない」とは共起しにくい点に、「ならない」「たまらない」という形式と話題との関連がうかがわれるところである。つまり、その話題から客観性・論理性が求められる「国会」のような場に

においては、個人的な希望、感情、感覚の表出がなじまないと考えられるのではない。「ならない」と「たまらない」の選択においては、このような使用の場の要素が効いていると思われる⁴⁾。

なお、「知恵袋」「書籍」とともに、「国会」に見られるような顕著な偏りは認められない。これは、「知恵袋」が「国会」とは話題の傾向が異なるためである。また、「書籍」は複数の要素が含まれた広範囲のコーパスであるため、フォーマルさや話題において特定できないことが影響していると考えられる。

つぎに、「しかたない」「しようがない」の2形式をみたい。先に述べた「ならない」「たまらない」の出現数の偏りに比べると、「しかたない」「しようがない」の2形式における出現数の偏りは少ない。一見すると、使用範囲が広いとも思われる2形式であるが、今回の分析で見ると、「国会」においては「しようがない」がより多く出現するのに対し、「知恵袋」では「しかたない」がより多く出現している。これは、「国会」が音声言語であるのに対し、「知恵袋」が、音声的な要素を有すると言うものの、文字言語であることに起因すると考えられる。この2形式に、文字言語の「しかたない」、音声言語の「しようがない」という特徴付けが妥当であることは、音声言語である『男性のことは・職場編』、『名大会話コーパス』で「しようがない」のみが抽出された結果からも支持された。

こうしてみると、「しかたない」「しようがない」の2形式の選択において、音声か文字かが主要な決定力となっていると考えられる。また、従来の記述に「しようがない」は「くだけた」表現という特徴づけがなされることがある（グループ・ジャマシイ1998：256）。しかし、本稿で調査したフォーマルな場である国会での高い使用率からすると、「しようがない」に対する「くだけた」表現という特徴づけも適当ではないことがわかる。

6.2 ジャンルから見る前接語彙と4形式の共起率

実際の日本語使用においては、場に応じた話題がありそこから適切な語彙を選択する。つまり、本コーパスにおいてはジャンルが話題に深く関わっていると考えられる。さらにその話題によって多用される前接語彙の傾向が決まってくるであろう。

そこで、ここでは、使用頻度の高い前接語彙が各形式と共起してどのジャンルに分布しているかを調べ、ジャンル別の使用実態の傾向を探る。表7「前接語彙別に見る4形式との共起率」の中から、分析可能なデータ数ということを考慮し、出現頻度が高い前接語彙上位5つの「気がする」「思

える」「～たい」「気になる」「不思議だ」をとりあげ、分析する。

これらのジャンル別の出現数をまとめたのが表9である。しかし、4.で述べたように、本コーパスに所収されているデータの語数にはジャンルによる量的な偏りが見られる。それを解消するために、「国会」の語数を1とし、知恵袋1.06、書籍6.18という比率を使って出現数から算出した値が、表中の[]内である。

表9 ジャンルから見る前接語彙と4形式の共起数

	総数	4 形 式	国会	知恵袋	書 籍
気がする	168	ならない	35	12[11.3]	105[17.0]
		たまらない	0	0	0
		しかたない	0	1 [0.9]	4 [0.6]
		しょうがない	5	1 [0.9]	5 [0.8]
思える	111	ならない	19	4 [3.8]	79[12.8]
		たまらない	0	0	0
		しかたない	1	2 [1.9]	2 [0.3]
		しょうがない	2	1 [0.9]	1 [0.2]
～たい	77	ならない	0	0	0
		たまらない	0	6 [5.7]	48 [7.8]
		しかたない	0	9 [8.5]	5 [0.8]
		しょうがない	1	4 [3.8]	4 [0.6]
気になる	65	ならない	0	0	10 [1.6]
		たまらない	0	0	2 [0.3]
		しかたない	0	27[25.5]	8 [1.3]
		しょうがない	1	16[15.1]	1 [0.2]
不思議だ	64	ならない	1	12[11.3]	32 [5.2]
		たまらない	0	5 [4.7]	6 [1.0]
		しかたない	0	2 [1.9]	1 [0.2]
		しょうがない	1	1 [0.9]	3 [0.5]

表9から、以下の3点に注目したい。まず、「気がしてならない」「思えてならない」は、「国会」で使用される頻度が高い。これは、「国会」のような自分の考えや意見を客観的に述べる場でこの共起パターンが使用されやすいことを示唆している。

2点目に「気になってしかたない」「気になってしょうがない」は、「知恵袋」において顕著に高い使用が見られる。両者の中でも「気になってしかたない」のほうが高い使用頻度であるのは、「知恵袋」が基本的に文字

言語であることに起因すると考えられる。さらに、「不思議でならない」も同様に「知恵袋」での使用頻度が高い。「知恵袋」のような疑問点や不明なことを表現する場においては、「気になってしかたない／しょうがない」「不思議でならない」という共起パターンが使用されやすいことを示唆している。

最後に、「～たい」は、「知恵袋」でもっとも高い使用頻度を示している。「知恵袋」は個人的な質問と回答が書き込まれる場であるため、主観的な感情を表す「～たい」の使用が多いと考えられる。しかし、「～たい」は「しかたない」との共起がもっとも高いものの、「たまらない」「しょうがない」の2形式とも共起している。この「知恵袋」における3形式との共起パターンは、話題による使い分けも考えられるが、これに関しては今後の研究課題としたい。

以上のように、4形式との共起パターンは、使用される場、さらには話題に応じて選択されている。したがって、従来の記述のように文脈から切り離された形で4形式と前接語彙との関係を説明しても、学習者にとって有用な情報とはなりにくい。本稿での様々な側面から分析して得られた4形式の使用実態は、学習者にとって有益な日本語情報となり得ると考える。

7. まとめ

以上、「ならない」「たまらない」「しかたない」「しょうがない」の4形式について、『BCCWJ』をコーパスとして分析し、前接語彙とジャンルという2つの観点から考察を行った。前接語彙に関しては「品詞」「意味」「共起パターン」、ジャンルに関しては「文字言語・音声言語」「フォーマル・インフォーマル」「話題の傾向」に注目した。本稿の分析で明らかになった点を以下にまとめ、今後、日本語教育の現場でこれらの4形式を指導する際、日本語学習者にわかりやすく説明するためのポイントとして提案したい。

まず、前接語彙との関連から、以下の3点を指導のポイントとしてあげることができる。

- 1) 品詞については、「ならない」と動詞、「たまらない」とイ形容詞との共起関係が強く、「ならない」と形容詞の共起では、ナ形容詞への偏りが見られた。
- 2) 意味については、「ならない」と自発・心状動詞、「たまらない」と希望・感情形容詞との間で強い共起関係が見られた。

- 3) 共起パターンについては、「気がしてならない」「～たくてたまらない」「気になってしかたない」など、いくつかの定型的パターンが見られた。

つぎに、ジャンルとの関連から、以下の3点を指導のポイントとしてあげることができる。

- 4) 文字言語・音声言語については、「知恵袋」のような文字言語の性格が強いジャンルでは「しかたない」、「国会」のような音声言語からなるジャンルでは「しょうがない」、という対立が見られた。
- 5) 「国会」のような、フォーマルさを持ち客観性を求められる話題の場では、「ならない」の多用と「たまらない」の非用という傾向が見られた。とりわけ、「気がしてならない」「思えてならない」という共起パターンが多かった。
- 6) 「知恵袋」のような、主に質問や疑問点を表現する場では、「気になってしかたない」「不思議でならない」という共起パターンが多く見られた。

これまでの先行研究や文法書などを概観すると、「ならない」「たまらない」「しかたない」「しょうがない」の4形式の使い分けについて、詳しく分析しようとするあまり、かえって抽象的で回りくどい定義が羅列されるくらいがあったように思われる。しかしながら、日本語教育現場でこれらの4形式を取り上げる際には、実際の使用場面に役立つ具体的かつ直接的な情報の提供が必要となる。本稿で『BCCWJ』の分析にもとづいて提案した上記の6つの指導ポイントは、より日本語学習者の立場に立ったわかりやすい基準になっているのではないだろうか。もちろん、本稿での結論は1つの限られたコーパスの分析結果によるもので、これだけで4形式の使い分けの基準が明確に整理できたとはいえない。しかし、指導にあたって提示すべきポイントとしては、十分にその価値があると考ええる。

注：

- 1) 先行論文の杉村（2007,2009）はどちらもアンケート調査の結果を論拠としており、これらの形式の使用実態を見極めるという立場での考察ではない。杉村（2007）でgooのウェブ検索を使って共起関係を調べてはいるが、これも結果の列挙にすぎず、分析のレベルまでは達していないと考える。
- 2) 泉原（2007）では、「～て死にそうだ」も記述の対象としているが、本稿ではとりあげない形式であるため、本文中では触れないこととする。

- 3) 「～たい」「～ほしい」といった希望を表す形式も「イ形容詞」に含める。
- 4) 表3と表6で「ならない」「たまらない」に前接する語彙の傾向が対照的であった点は、両者の使用される場面について考える上で示唆的である。

使用コーパス：

『現代日本語書き言葉均衡コーパスモニター公開データ（2009年度版）』
独立行政法人国立国語研究所言語資源グループ、2009年 [BCCWJ]
現代日本語研究会編（2002）『男性のことは・職場編』ひつじ書房
『名大会話コーパス』（平成13-15年度科学研究費基盤研究(B)(2)「日本語学習辞書編纂に向けた電子化コーパス利用によるコロケーション研究」（研究代表者：大曾美恵子）の一環として作成された）

引用文献：

- 庵 功雄（2001）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 泉原省二（2007）『日本語類義表現使い分け辞典』研究社
- グループ・ジャマシイ編著（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 杉村 泰（2008）「教育文法の立場から見た複合助辞「～てならない」、「～てたまらない」、「～てしかたがない」の誤用分析」『言葉と文化』9 名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本言語文化専攻pp.167-185
- 杉村 泰（2007）「「～てならない」、「～てたまらない」、「～てしかたがない」の使い分けー日本語母語話者と日本語学習者の比較ー」『世界の日本語教育』17国際交流基金日本語教育センターpp.1-15
- 友松悦子・宮本 敦・和栗雅子（2007）『どんな時どう使う 日本語表現文型辞典』アルク
- 前川喜久雄（2008）「KOTONOA『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の開発」『日本語の研究』4-1 pp.82-94

ちよん へそん（留学生センター准教授）
こいけ まり（留学生センター非常勤講師）
ふなはし みずき（留学生センター非常勤講師）

Usage of *-te naranai*, *-te shikatanai*, *-te shiyouganai*, *-te tamaranai* in the Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese: Application to teaching Japanese as a second language

JUNG, Hyeseon, KOIKE, Mari, and FUNAHASHI, Mizuki

In this paper, we analyzed the usage of four emotional expressions in Japanese, *-te naranai*, *-te shikatanai*, *-te shiyouganai*, and *-te tamaranai*, using data from the Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese. Analyses were carried out with regard to the (1) parts of speech, (2) meaning and (3) genre of the word which immediately preceded the emotional expressions. The results indicate that *-te naranai* has more limitations than the other three in terms of what kinds of words can precede the expression. It often occurs together with *kigasuru* 'feel like', *omoeru* 'seem like', and *omowareru* 'appear to be like'. As well, this expression is often used in formal situations. As for *-te tamaranai*, it often occurs with adjectives which express hope, likes, and dislikes such as *-tai* 'want to', *suki* 'like', and *iya* 'hate'. It, however, is not suitable for formal situations. The expressions *-te shikatanai* and *-te shiyouganai* have no distinctive features regarding the types of words which precede them, but we can categorize the former as written language and the latter as spoken language. We believe that the descriptions of usage of the four expressions based on the large-scale corpus provide useful information for learners of Japanese as a second language.